

当りのヤリイカ仕掛け

竿=極鋭ヤリイカ82MH-160 AGS

Tackle Guide

ブラツノ 11センチのプランコ仕掛けが基本だが、イカが大きいと14センチでも問題ない。14センチのブラツノのほうがバラシも少なく、サバに飲み込まれるリスクも減る。オモリは120号のほか、潮具合などによって150号も使うので用意をお忘れなく。

▼イカが大きいから乗りも分かりやすい



ここで私は直結仕掛けにチェンジして誘い続けたものの乗りはなく、今日はこちらまでかなと思つた瞬間にズドンとした強烈な手応えが伝わってきた。一瞬オマツリか

船宿information

茨城県鹿島港 利喜丸 0299-82-5762 (詳細は巻末の情報欄参照)



料金はヤリイカ乗合一人1万2100円(氷付き) 備考=予約乗合、4時集合。ほかヒラメ、フグ、一つテンヤマダイ、メバル五目へも

船長の話だと釣れ始めが遅れた分、例年より遅くまで釣れるのではないかとの見立てなので、今シーズンには5月下旬まで楽しめそう。

釣果もたまにポツリポツリと乗る状態になったところでも私も参戦。底中心に誘いを入れてゼロテンションで乗りを察知したり、10メートル上までシャクリ上げたり、20メートルまで巻き上げてから巻き落としをしたり、電動ズル巻きをしたりと知る限りのあの手の手を駆使したがヤリイカからのラブコールは訪れない。この乗り漁りに見切りをつけた船長は、9時45分になって鹿島沖の水深130メートル前後へ移動。しかしこのポイントで最初に待ち受けていたのは40センチもあるサバたちだった。オマツリもさることながら大型のサバだったのでイカツノをすつかりと飲み込んでしまふ。厄介だが、マサバも交じっていたので血抜きして大事にキープする。

開始早々に「やられた」と各所で声が上がりがり船上はほとんどやわんや状態。ほとんどの方が仕掛けを下ろす途中で25センチほどの小サバにつかまってしまったようだ。それでも運よく着底すれば確実にイカは乗ってくるよう。左舷ミヨシの平田さんが「乗りました」と言うので見てみると、竿先はイカ特有のクイックイットとした動きをしていた。ところが巻き上げ途中にガタガタと異なる魚信に変化。仕掛けが上がると上のツノ3本にはサバが掛かっていたが、下のツノ2本には胴長40センチオーバーのヤリイカが乗っていた。左舷トモ側に目を移せば女性アングラーの田中裕子さんがイカを乗せて巻き上げ開始。難なく2杯のヤリイカを取り込んだのだが、その手さばき

が鮮やかなので話を聞くと、「今日は一人で来ました。沖釣りの魅力にハマって10年。今ではLINEで釣り友たちと楽しくやりとりしています」とのことだった。釣友の堀君は、「サバが邪魔して底まで落ちないので直結仕掛けに変更したら乗ったよ」とようやく1杯目をゲット。しかしその後は乗ってもバラシを連続していたので彼の仕掛けを見ると、クッションゴム付きの中オモリを使用し

が、右舷より左舷のお客さんの人数が2名少ないのでオマツリのリスクが少ない分イカの数をのばしていた。

相変わらずサバはうるさいが、右舷より左舷のお客さんの人数が2名少ないのでオマツリのリスクが少ない分イカの数をのばしていた。

クッションはのびたり縮んだりするので直結仕掛けだとその反動でイカが外れてしまうことがある。すぐに外させるとバラシは軽減した。

8時過ぎになるとサバは減ってきたものの、イカのあたりも徐々に少なくなり入れ乗りタイムは終了。群れが散ってしまったのか? いても乗り漁っているのか? その辺を船長に伺うと、

「このところのカネコの特徴で、暗いうちはイカの群れが固まるのだけど明るくなるにつれて広い範囲に散ってしまふみたい」と言っていた。

と80メートル前後の浅場で釣れる点だ。釣友の堀君も、「イカは使い勝手がいいので、おすそ分けに持つていくと一番喜ばれるし、下処理をせず渡せてラクチンだからイイネ」とやる気だ。

最近の釣況はトップで20、50杯となっており、釣果の差はサバが邪魔するかしらないかも影響しているとのこと。 「今日はカネコに行くのでオモリは150号でお願いします」と大川船長からアナウンス。4時に集合して、14名が乗り込み、全員の準備が整ったところで港を離れた。

6時過ぎにポイントに到着すると、

「水深は130メートル。下から10メートルまで探ってください」と船長から開始の合図が出され、一斉に投入器から仕掛けが飛んでいく。

このエリアのイカ釣りは魚探でイカを探して移動を繰り返すのではなく、船を潮に乗せて大流して探るのだが、オマツリ防止のため再投入の際にも投入器にイカツノを入れて投入するようにしたい。

と引込まれるのでイカだと確信。慎重に巻き上げると上から2番目のケイムラカラのツノに胴長45センチのヤリイカが乗っていた。

ポツリポツリではあるがほかの人も数杯ヤリイカを釣り上げた。この日は朝のゴールデンタイムにサバの邪魔が入ったことからトップで20杯、一人平均10杯程度の釣果となったが、今後は近場に第2波、第3波の群れが現れるので数ものびることだろう。

船長の話だと釣れ始めが遅れた分、例年より遅くまで釣れるのではないかとの見立てなので、今シーズンは5月下旬まで楽しめそう。

と80メートル前後の浅場で釣れる点だ。釣友の堀君も、「イカは使い勝手がいいので、おすそ分けに持つていくと一番喜ばれるし、下処理をせず渡せてラクチンだからイイネ」とやる気だ。

最近の釣況はトップで20、50杯となっており、釣果の差はサバが邪魔するかしらないかも影響しているとのこと。 「今日はカネコに行くのでオモリは150号でお願いします」と大川船長からアナウンス。4時に集合して、14名が乗り込み、全員の準備が整ったところで港を離れた。

6時過ぎにポイントに到着すると、

「水深は130メートル。下から10メートルまで探ってください」と船長から開始の合図が出され、一斉に投入器から仕掛けが飛んでいく。

このエリアのイカ釣りは魚探でイカを探して移動を繰り返すのではなく、船を潮に乗せて大流して探るのだが、オマツリ防止のため再投入の際にも投入器にイカツノを入れて投入するようにしたい。

と引込まれるのでイカだと確信。慎重に巻き上げると上から2番目のケイムラカラのツノに胴長45センチのヤリイカが乗っていた。

ポツリポツリではあるがほかの人も数杯ヤリイカを釣り上げた。この日は朝のゴールデンタイムにサバの邪魔が入ったことからトップで20杯、一人平均10杯程度の釣果となったが、今後は近場に第2波、第3波の群れが現れるので数ものびることだろう。

船長の話だと釣れ始めが遅れた分、例年より遅くまで釣れるのではないかとの見立てなので、今シーズンは5月下旬まで楽しめそう。

と引込まれるのでイカだと確信。慎重に巻き上げると上から2番目のケイムラカラのツノに胴長45センチのヤリイカが乗っていた。

ポツリポツリではあるがほかの人も数杯ヤリイカを釣り上げた。この日は朝のゴールデンタイムにサバの邪魔が入ったことからトップで20杯、一人平均10杯程度の釣果となったが、今後は近場に第2波、第3波の群れが現れるので数ものびることだろう。

船長の話だと釣れ始めが遅れた分、例年より遅くまで釣れるのではないかとの見立てなので、今シーズンは5月下旬まで楽しめそう。

と引込まれるのでイカだと確信。慎重に巻き上げると上から2番目のケイムラカラのツノに胴長45センチのヤリイカが乗っていた。

ポツリポツリではあるがほかの人も数杯ヤリイカを釣り上げた。この日は朝のゴールデンタイムにサバの邪魔が入ったことからトップで20杯、一人平均10杯程度の釣果となったが、今後は近場に第2波、第3波の群れが現れるので数ものびることだろう。

船長の話だと釣れ始めが遅れた分、例年より遅くまで釣れるのではないかとの見立てなので、今シーズンは5月下旬まで楽しめそう。

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

南伊豆では早咲きの河津ザクラが見ごろを迎えて一足先に春本番。今回は潮がぬるむ春に期待が高まる人気魚3種をピックアップしました。



▲鹿島のヤリイカは良型主体。例年釣り場が浅くなる今後は楽しみだ

◎茨城県鹿島港発↓鹿島沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

鹿島のヤリイカ春の祭典 大型ぞろいので乗り上々!

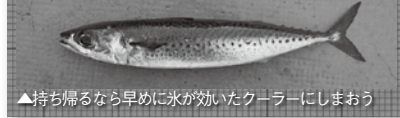
2月のつり情報カレンダーには照英さんがヤリイカを持ってうれしそうにしている写真が載っていた。いよいよヤリイカ釣りファン待望の季節が到来したが、どうも今年ほどのエリアも群れの回遊が遅れているようであまり好ましい釣果は報告されていません。毎年お邪魔している鹿島でもヤリイカの群れが訪れずファンがヤキモキしていたのだが、1月の後半に入ってからようやく第1陣が到着したらしい。2月12日、さっそく釣友2人と茨城県鹿島港の利喜丸へ出かけた。

大型ヤリイカを求めて

鹿島出船の特徴は、開幕直後から胴長40センチ以上の大型で肉厚のヤリイカがメインに釣れるのと、深くても水深150メートル、最盛期ともなる

サバ対策

サバはヤリイカ釣りの税金とはいえオマツリの原因となるので厄介。対策としてはツノ数を減らす。オモリを重いものにする。ツノを大きいサイズにする。直結仕掛けにチェンジするなどがあるが、サバが掛かったら竿を海面と垂直にして高速で巻くと泳ぎ回ってオマツリするリスクが減るので試してほしい。ツノが飲み込まれてしまったら市販のサバ外して外すのが便利。



▲持ち帰るなら早めに氷が冷たいクーラーにしまおう

と80メートル前後の浅場で釣れる点だ。釣友の堀君も、「イカは使い勝手がいいので、おすそ分けに持つていくと一番喜ばれるし、下処理をせず渡せてラクチンだからイイネ」とやる気だ。最近の釣況はトップで20、50杯となっており、釣果の差はサバが邪魔するかしらないかも影響しているとのこと。 「今日はカネコに行くのでオモリは150号でお願いします」と大川船長からアナウンス。4時に集合して、14名が乗り込み、全員の準備が整ったところで港を離れた。

6時過ぎにポイントに到着すると、 「水深は130メートル。下から10メートルまで探ってください」と船長から開始の合図が出され、一斉に投入器から仕掛けが飛んでいく。このエリアのイカ釣りは魚探でイカを探して移動を繰り返すのではなく、船を潮に乗せて大流して探るのだが、オマツリ防止のため再投入の際にも投入器にイカツノを入れて投入するようにしたい。



●すずき よしかず/大型のマダイ、ヒラメ、ハタのバラシが続いたので厄除けに行きました。お賽銭が少なかったせいか、いまだにバラシは続いています。